

ニュースレター

Vol.6



■ 発刊にあたって

高知県合同輸血療法委員会は、県内6つの主要医療機関、高知県医師会、高知県赤十字血液センター、高知県によって開催され、県内の血液製剤の需給状況や使用状況を分析・評価・情報共有し血液製剤の適正使用の推進を図ることを目的としています。

より多くの医療機関の皆様、県内の血液製剤使用状況等を知っていただき、適正使用を推進するため、「高知県合同輸血療法委員会ニュースレター Vol. 6」を発刊することとなりました。皆様方には、引き続き血液製剤の適正使用にご協力をお願いいたします。

■ 内容

1. 令和6年度高知県合同輸血療法委員会 開催報告	1
2. 高知県における血液製剤供給量	2
3. 令和4年度血液製剤使用実態調査について	2
4. 血小板製剤の供給体制について（高知県赤十字血液センターからのお願い）	3

1. 令和6年度高知県合同輸血療法委員会 開催報告

〈日 時〉 令和6年8月23日（金）18:30～20:00（高知県庁及びWeb併用）

〈出席〉 委員8名（委員代理含む）、オブザーバー4名

- 〈議事内容〉
- 1 廃棄血・血液製剤の使用状況について
 - 2 血液製剤の院内備蓄量について
 - 3 高知県における令和4年度血液製剤使用実態等について
 - 4 血小板製剤の供給体制について
 - 5 ニュースレターについて
 - 6 その他

〈協議概要〉

・廃棄血・血液製剤の使用状況等について

各委員より自院での血液製剤の使用状況（使用量・廃棄量・廃棄率）や経年推移、その背景について報告があった。各医療機関では患者状態等を総合的に判断することで血液製剤の適正使用を行っており、赤血球製剤の有効期間の延長により院内備蓄量を増やすよう見直した等の説明があった。

・高知県における令和4年度血液製剤使用実態等について

高知県輸血・細胞治療研究会より「高知県における令和4年度血液製剤使用実態等について」の報告があった。（詳細はP2「令和4年度血液製剤使用実態調査について」のとおり）

・血小板製剤の供給体制について

高知県赤十字血液センターより「血小板製剤の供給体制について」の報告があった。（詳細はP3「血小板製剤の供給体制について（高知県赤十字血液センターからのお願い）」のとおり）

・その他

事務局より、「災害時の輸血用血液の供給体制」及び「各医療機関における学会認定・臨床輸血看護師の取組み状況調査」について報告を行うとともに、高知県輸血・細胞治療研究会から「輸血に係る過誤・インシデント報告」について情報提供いただいた。

2.高知県における血液製剤供給量

①人口1,000人当たりの血液製剤供給数

○中国・四国管内（令和5年度）

赤血球製剤（単位）		
順位	都道府県	供給数
7	山口	60.1
12	高知	58.1
13	徳島	56.7
20	鳥取	53.0
21	香川	52.9
24	広島	52.4
25	愛媛	52.3
-	全国平均	52.0
29	岡山	49.3
46	島根	36.4

血漿製剤（単位）		
順位	都道府県	供給数
12	高知	17.9
-	全国平均	16.9
17	鳥取	16.6
24	山口	15.8
26	岡山	15.3
31	徳島	13.7
37	香川	12.9
38	愛媛	12.8
39	島根	12.4
45	広島	11.3

血小板製剤（単位）		
順位	都道府県	供給数
3	広島	97.0
7	徳島	85.2
10	鳥取	75.9
11	高知	75.5
16	岡山	71.5
-	全国平均	70.0
30	愛媛	61.2
38	島根	54.4
40	山口	54.0
44	香川	52.2

○高知県の特徴

- ・人口当たりの各製剤の供給量は微増傾向にあり、いずれも全国平均を上回る位置で推移している。また、中国・四国管内で上位に位置している。
- ・その要因として、高齢化率・人口当たりの病院数・機能別病床数・地域特性などが複合的に影響していることが推察される。

3.令和4年度血液製剤使用実態調査について

本調査は、各医療機関における輸血管理体制の整備、および血液製剤の使用状況や適正使用の促進状況などを正確に把握することを目的として毎年、全国で実施されている調査です。

この度、令和4年度の調査結果※から、「血液型検査の二重チェック」について全国と比較して本県の実施率が低い状況が確認されました。

当該二重チェックについては「輸血療法の実施に関する指針」により下記のとおり実施することが重要ですので、本検査の目的を踏まえ、適切な対応をお願いします。

【二重チェックの目的】

血液検査において、1検体だけの検査では、患者間違いによる採血が行われた場合や、検査結果を間違えてしまった場合等、**ABO不適合輸血のリスクが高くなる**ことから、ABO不適合輸血を防ぐため、血液検査の二重チェックを実施する。

※ABO不適合輸血は、患者の血液型と異なる血液型の輸血用血液製剤を輸血する過誤であり、患者さんに重篤な副作用が発生する可能性がある他、死に至る場合もある。

【二重チェックの方法】

- ・同一患者からの異なる時点での2検体で、二重チェックを行う必要がある。
- ・同一検体について異なる2人の検査者がそれぞれ独立に検査し、二重チェックを行い、照合確認するように努める。

※「厚労省の事業である血液製剤使用適正化方策調査研究事業で得た成果を使用しています」

4.血小板製剤の供給体制について（高知県赤十字血液センターからのお願い）

高知県における血小板製剤の供給体制における課題

前日予約の締め切り時間が周知できていない。

予約本数に基づき献血者への呼び出し等を行い、計画的な採血及び必要本数の確保に努めているため、前日午後以降の予約に対する確保が困難となる。中四国管内の他県では**前日12時までを締切時間として設定**している。

当日発注が多くなっている。

事前予約でないため、管内における血小板調整及び医療機関への供給に時間を要する。必要に応じて、先約で供給予定の医療機関に相談し、融通をお願いすることがある。

中四国管内の他県では前日12時までの**予約が徹底**されている。
他県での緊急時は、**先約の医療機関と調整**を図っている。

血小板製剤の仮予約(キープ：納品せず血液センターで確保)を行っている。

管内の限られた血小板製剤が有効利用できず、一部の県で血小板製剤の予約による供給ができない等の事例が生じている。同時に、キャンセルが多数発生した際、多くの血小板製剤の期限切れが発生する。

中四国管内の他県では基本的に**仮予約を行っていない**。

高知県における今後の血小板製剤の供給体制 —ご協力をお願いします—

- ・中四国全体で血小板を円滑に有効利用するため
- ・緊急使用患者様への血小板在庫を確保するため

- ①血小板製剤のキープは**最小限(本数・時間)**に
- ②待機可能な患者様分は

**可能な限り午後納品
をお願いします！**



中国・四国地方全体の適正運用のために
ご協力をよろしくお願いいたします！

